

令和6年度 講演会 視聴された方のアンケート集計

「発達障害のある子とその家族がもっといきいき過ごせるように

～思春期・青年期をうまく乗り越えるためには～」

配信期間＊令和6年7月19日(金)10時～7月29日(月)17時

◆講演を放課後デイサービスの職員研修や小学校の現職教育として活用された現場がありました。特別支援教育の推進において職員間の共通認識が得られたことと今後の支援にあたって、一人ひとりに合った支援や年齢に応じた支援が大切だと感想をいただきました。

(ポラリスへの報告あり件数:2 事業所 のべ17名が同時視聴)

◆講演を視聴された方々で多かった感想等をご紹介します。

*全体として多かった感想

- ・講演は非常に説明が分かりやすく、資料も理解しやすく、今後の支援に役立てたい。
- ・発達障害について基本的なところから説明していただき、知識や理解を深められた。
- ・具体的な事例を含めての説明があり参考になりました。
- ・一人一人の特性を理解し、色々な角度から視点をもって支援を行いたいと思った。「できないこと」へ視点が向きがちだが、「できること」への視点も大事なのだと感じました。
- ・カウンセリングマインドを相手にわかりやすく示すことが大切だと感じた。

*福祉や教育現場の従事者の方の感想(原文のまま記載)

- ・「できたことを認める」と「できているところを認める」の言葉だけ見るとわずかな違いですが、自己肯定感や自尊感情を育てるうえで大きく違うという話が印象的でした。「できたことを認める」ことは支援や教育の現場でもよく見られますが、「できていることを認める(本人が)」ことと今できていないことも受け入れる(自分も、周囲も)ように声かけしていくことの両方が大事なのだと感じました。
- ・新人教育担当をしています。最近の若者の教育は難しく感じている。発達障害に関する知識と関わり方について知る事で、発達傾向のある人への見方が変わると感じました。今回の講演を今後職場での新人教育の過程に活かしていけるよう自分自身の在り方を意識していきたいです。
- ・子どもから大人へ、切れ目ない支援をするために、その時期や特性などいろんなことを踏まえその人にあった支援方法を考える必要性を、改めて理解することができました。
- ・面談等で話を聴く際に、対象者の思いの受け止めから次の展開が難しいと感じています。ストレスコーピングやリフレーミングを提案するという事は、非常に参考になりました。
- ・自己肯定感や自尊感情を高められるような、声かけや環境作りが大切だと思った。特に、リフレーミングの考え方が参考になった。算数科では、課題に行き詰まったときに、問題を変えてみるなどをやってみたいと思った。

- ・就労支援の仕事をしています。学生のうちの配慮等は整備されてきていますが、社会に出てからは一般就労か雇用枠か、障害開示するかしないかで悩みや不安が大きくなると思います。そこに寄り添って丁寧に支援していくことの大切さを最近はより一層感じています。
- ・クラスの児童を想像しながら視聴した。彼らは自分に自信がなく、できないことが多いと思っている。「できるやん」と思えるような声かけ、合理的配慮の必要性を感じた。しかし、こちらがよかれと思ってやりすぎることが、かえって彼らのストレスにつながることも分かった。自分たちが「やりたい」と思えるような環境作りが大切だと思った。また、家庭と連携して楽しく取り組めるような学習を考えていきたい。
- ・仕事をしていく上で、一人ひとりにあった支援や、年齢の違いをしっかりと理解した上での支援の大切さを学ぶことができました。

＊ご家族の方や当事者の方の感想

- ・我が子が思春期に入り、困り事に対処する参考になれば、と思い受講しました。知っていてもできていないなあ、忘れていたなあ、と思うところがいくつかあり、子供と接する際に気をつけようと思いました。資料をみて、また復習したいと思います。
- ・不安にならない対処の仕方を身につける、自分でコントロールする力を身につけるための支援が必要ということを教わりました。今後も息子自身の気持ちを尊重し、すぐに手を差し伸べるのではなく、息子自身が自立して行動できるように見守っていきたいと思います。

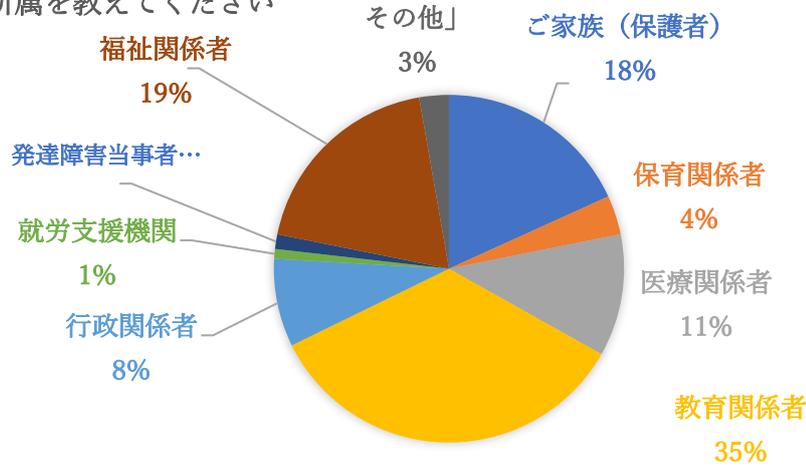
【子ども：起立性調整障害及び発達障害(軽度の自閉症)診断有】

- ・色々と言われたいと思っております。例えば、Nothing about us without us (親子で正にその通り!)と感じました)、very good より good enough (~しなければいけないと考えがちな所を切り替える言葉と思います)、ASD と ADHD 両方傾向ある息子からすると、即時に評価 (ADHD) でも対応は一貫性が必要というのは難しいなど話しました。トライアル&エラーの意義でも実際にはプライドもありなかなか試せず悩んでしまい進まない、自己判断と自己決定しろと言われてもそのする場面の対応の難しさ、激励と中傷の違いなど、感じていることまとめられる講義で有意義でした。

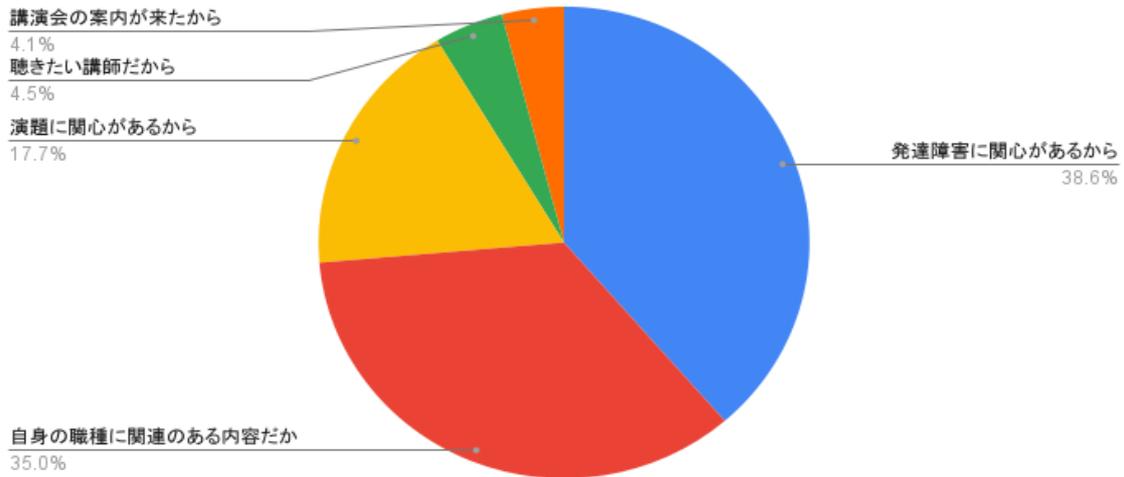
【子ども：ASD,ADHD 診断有】

- *申込者数 : 655名 (1事業所複数名含む)
- *視聴状況 : 前半 678回数 (YouTube コンテンツより抜粋)
- *アンケート回収 : 220件

Q1:所属を教えてください



「Q2. 今回の講演会を視聴された理由についてお伺いします。」



Q3. 今回の講演会はいかがでしたか。当てはまるものを1つ選択してください。

220 件の回答

